

03. 事業化に向けたスケジュール

事業スケジュールの想定

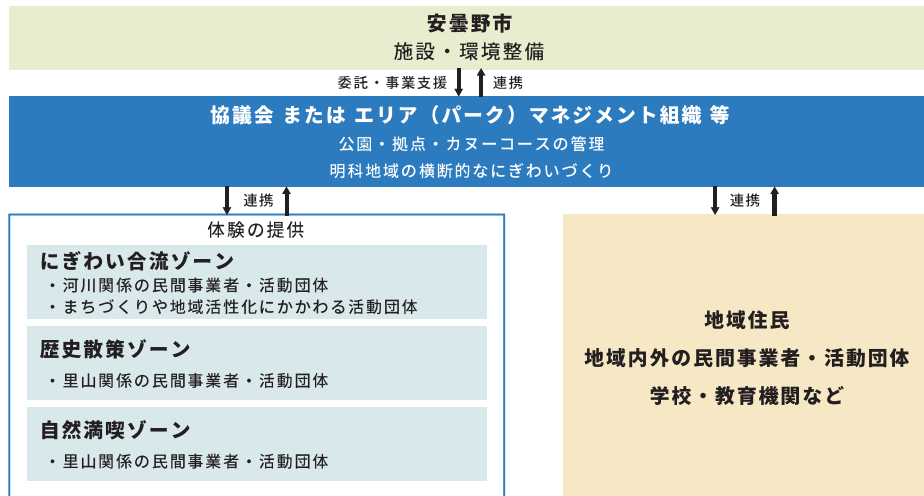
アウトドア拠点整備については、令和11年度供用開始を目標とします。 犀川や前川など河川整備については、河川管理者（国、県）と協議、調整し、整備に努めます。

	R6年度(2024)	R7年度(2025)	R8年度(2026)	R9年度(2027)	R10年度(2028)	R11年度(2029)
拠点整備		基本計画		基本・実施設計	整備工事	供用開始
河川整備	かわまち申請	調査・設計		河川工事		供用開始
市民の動き	かわまち委員	河川管理検討会	河川利用ルールづくり	運営組織の設計・検討	人材育成、学校連携、地域クラブ運営等	

推進主体の整備

本構想の実現に向けては、にぎわい拠点の運営主体の確保はもちろんのこと、各ゾーンにおける担い手組織との連携など、エリアマネジメントの視点が必要です。

各ゾーンで行われるイベントの連携強化やWEB・SNSなどを使った効果的な情報発信などを行う、協議会またはエリアマネジメント組織を組成して、明科地域のにぎわい創出に取組みます。



人、自然、歴史が“巡る” 水郷のにぎわい合流拠点

安曇野市東部アウトドア拠点整備基本構想
= 概要版 =



令和6年(2024年)3月

01. 明科地域の現況と課題

明科地域市民、関係者が求めるアウトドア拠点の役割（市民ワークショップまとめ）

<拠点を考える前提（現状と課題）>

<外部環境>

- 観光市場は活況だが競合が非常に多い。
- 一過性の観光よりも、滞在を通じた観光地の回復やコミュニティの支援などへの関心が高まる。
- 教育や食に対する消費意欲は高い。
- 人材育成に対する関心が高い。
- 日本全体として労働力不足であり今後も継続する予測となっている

<内部環境>

- 明科地域の今後のエネルギー源であるヒト・モノ・コトのポテンシャルは高い。
- コンパクトなエリアに川、空、山、歴史があり、独自性が高い。
- 担い手となる人口が減少しておりガイド等も十分ではない。
- 明科地域に対する満足度や定住意欲が低く、市民のファン化が必要。
- 宿泊施設が少なく、日帰りが多い。

<拠点を通じて目指したい姿、実施したいこと> (WSより)

アウトドアだけではなく
まちに還元できる、
まちにつながること

次世代につなげていく、
子どもたちに明科を
好きになってもらいたい

来た人が楽しめるガイド
やインストラクターが
いる、魅力がある

市民自身も動きを知り、
明科を誇りに思ってもら
えるように

外から来る人も「ファン」
になってもらい、環境を
大切にもらい、一緒に
盛り上げていきたい

川から里山、空までまち全体をつなぎ、誰もが楽しめる拠点
子供や地域内外プレイヤーを巻き込んだ、人材の発掘・育成・連携の拠点

拠点を通じて、明科のヒト・モノ・コトがつながり
新しい人たちが集い繋がる拠点となることを目指す。

02. アウトドア拠点の基本的な考え方

アウトドア拠点のコンセプト

人、自然、歴史が“巡る”
水郷のにぎわい合流拠点

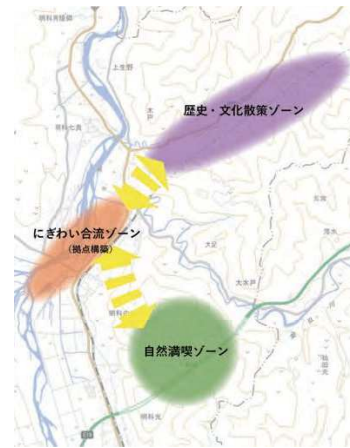
基本方針1 「にぎわいが巡る」かわまちづくり

基本方針2 「自然が巡る」体験づくり

基本方針3 「歴史・文化が巡る」人づくり



明科地域の全体ゾーニング



ゾーン名	活用できる資源	活用の方向性	取組方針
にぎわい合流ゾーン	・龍門洲公園・あやめ公園 ・前川・犀川 ・御宝田水のふるさと公園遊水池（白鳥湖） ・自然体験交流センター「せせらぎ」 ・明科駅周辺 ・空き家・空き地	・初心者から上級者までウォーターアクティビティを楽しめるリバーパーク ・地域内外の人々が利用できる憩いの場 ・情報発信・交換拠点 ・明科地域を学ぶ・知る場	・センターハウスを含む滞在環境の整備 ・前川のコース整備 ・飲食、宿泊施設の拡充 ・地域づくりの担い手や各種ガイドの育成 ・スポーツクラブの設置、選手の育成 ・せせらぎと連携した子どもたちの自然教育 ・教育旅行や企業研修の受入 ・他ゾーンと統一した案内板の設置
歴史・文化散策ゾーン	・旧国鉄篠ノ井線廃線敷 ・岩州公園 ・けやきの森自然園	・「東の玄関口」としての歴史文化を学べるまちあるき	・ルートの環境整備 ・トイレ、駐車場の整備 ・地域づくりの担い手や各種ガイドの育成 ・地域通訳案内士と連携したインバウンド対応 ・他ゾーンと統一した案内板の設置
自然満喫ゾーン	・長峰山・天平の森 ・金玉池	・北アルプスの眺望と自然を楽しむ里山と空のアクティビティ（トレッキング、ハングライダー、パラグライダー、MTB、自然観察等） ・天平の森でキャンプ、グランピング	・通年で楽しめる眺望やルートの環境整備 ・トイレ、駐車場の整備 ・植物や生物の保護 ・里山体験、森林体験等の提供 ・地域づくりの担い手や各種ガイドの育成 ・地域通訳案内士と連携したインバウンド対応 ・他ゾーンと統一した案内板の設置

にぎわい合流ゾーンの導入機能と整備方針

